

277-1125 25.9.10

ながさき南部生産組合

創立50周年記念式典開催

生協とともに歩んできた

農事組合法人ながさき南部生産組合(長崎県)を9月3日に開催した。記念式典には来賓と衆議院議員、農林水産省大臣官房環境バイオープ代表理事専務、村上彰一生活クラブ事業生協や消費者団体、生産者団体、地元の取引

開式後、近藤一海会し、地域に共同農業の長代表理事が壇上に立仕組みを作り、今ではち「1975年に5人140人の組合員(生の仲間と産直農業の確産者)、38種類の野立を目指して組合を結菜、果物を年間7000成した。当時は前例の0.5出荷し、職員22ない農業経営を模索名、パート50名が働



50年の想いを語る近藤一海会長

が壇上で表彰された。

- ① コープかごしま
- ② ユーコープ
- ③ モスフードサービス
- ④ 生活クラブ
- ⑤ オイシックス・ラ・大地
- ⑥ 東都生協
- ⑦ パルシステム
- ⑧ コープデリ
- ⑨ コープこうべ
- ⑩ みやぎ生協

- ⑪ グリーンコープ
- ⑫ 京都生協
- ⑬ よつ葉農産

この表彰の副賞は5名5組が利用できる、ながさき南部生産組合の民泊の宿泊券。近藤一海会長によると、生産者と消費者がより相互理解を深めるため、産地を知って交流するための副賞だという。

生産と消費を結ぶために

縄まで40年にわたり実績を積み上げてきた。2024年の出荷先を業態別に見ると、生産の有機農業や産直という概念はなかなか理解をされない時代であった。半世紀を経て農業が衰退する現在、ながさき南部生産組合の「次世代に続く農業」に注目していきたい。

創立50周年記念誌

野見山敏雄(東京農工大学名誉教授)



本書はながさき南部生産組合(以下、ながさき南部)の創立50周年を記念して企画されたものです。第1回編集会議を2024年3月に開催し、その後1〜2カ月ごとにZoomミーティングを行いました。

出版の目的は、ながさき南部が実践した環境保全型農業と産直事

編集代表 近藤一海・中島紀一・野見山敏雄
『いのちあふれる農業、未来へ』
—ながさき南部生産組合の50年—
筑波書房、2025年7月発行



業を振り返るとともにの代表によるインタビューに、社会に向けて条件ユーと6名の研究者が、ながさき南部の現状と今後の発展方決方策の過程を発信す向について記述し、第2部はながさき南部の設立50周年に寄せて14名の方からのメッセージを載せています。第3部は資料編として、年表や過去の著作リストと動画のQRコードを載せています。また、カバーと口絵のデザインはながさき南部の2名の女性役員によるものです。

振り返ると、私も久しぶりにながさき南部の事業活動をたどることができて、「ゆかいな産直、きつい産直」の概念を発見するなど感慨深い一年半となりました。西南暖地の産直産地が実践した産直50年間にわたる過程を是非ともお読みいただければ幸いです。